

## 「施策」総括票

施策展開	2-(3)-才	保健衛生の推進
施策	⑥危険生物対策の推進	
対応する 主な課題	<p>○例年ハブ咬傷者が100人程度発生していることから被害の未然防止が課題になっている。また、近年急速に分布を拡大している危険外来種の駆除対策が大きな課題である。</p> <p>○例年ハブ咬傷者が100人程度発生していることから被害の未然防止が課題になっている。また、亜熱帯に位置する本県の海には、ハブクラゲやオコゼなどの猛毒を持つ生物が多種生息し、これらによる刺咬症事故が発生している。</p>	
関係部等	福祉保健部	

### I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
<b>○ハブ咬症対策</b>				
1	抗ハブ毒ヒト抗毒素の実用化事業	36,295	順調	○ハブ咬症時の治療薬について、現在使用されているウマ抗毒素(馬の血液由来の血清)より効果が高く、より人間の成分に近く副作用が起きにくい抗ハブ毒ヒト抗毒素(人由来の血清)を開発するための試験分析を実施した。(1)
2	危険外来種咬症対策モデル事業	12,932	順調	○外来ハブ類の分布範囲推定による効果的な駆除法検証を行うためのモデル地域の選定(5地区)及び分布調査トラップの設置を行った。(2)
3	抗毒素配備事業	4,805	順調	○ハブ咬症時の県民及び観光客の安全な治療環境を確保するため、治療薬であるウマ抗毒素を購入し、県内の医療機関に無償で配備した。(3)

様式2(施策)

○ハブクラゲ等海洋危険生物対策					
4	危険生物対策		546	順調	○海洋危険生物のポスター、小冊子等を作成し、学校、市町村、ホテル等の各関係機関へ配布した。また、関係者等に対し危険生物対策講習会を実施した(5月)。(4)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	ハブ咬症者数		96人 (21年)	92人 (24年)	86人以下	4人	—
状況説明	復帰前後に比べ咬症者数は減ってきているものの、依然として100名近くの被害が発生している。安全な治療環境の確保のためにも、今後も継続して抗毒素を配備する必要があると考える。						
2	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	ハブクラゲ刺症被害者数		91人 (22年)	83人 (24年)	82人以下	8人	—
状況説明	ハブクラゲ刺症被害者数は年々減少していることから、当事業による学校関係者や海水浴場管理者等関係者を対象としたハブ・ハブクラゲ等危険生物講習会の開催により、一定の成果が挙げられたと考えられる。						

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

III 内部要因の分析 (Check)

<p><b>○ハブ咬症対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サキシマハブの分布範囲推定に関しては、トラップを用いた調査法では精度が悪く、駆除手法を含めた有効な捕獲方法等の検討が必要である。</li> </ul> <p><b>○ハブクラゲ等海洋危険生物対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハブクラゲ侵入防止網の設置率も上がってきているが、依然として100名近くの被害が発生しているため、未然防止のため今後も更なる広報啓発に努める必要がある。</li> </ul>
---

#### IV 外部環境の分析 (Check)

##### ○ハブ咬症対策

- ・抗ハブ毒ヒト抗毒素(人の血液から作る血清)の開発は、臨床試験等を進めながら治験薬及び医薬品製造を行うため、医薬品製造業者の協力が必要である。
- ・年間ハブ咬症者数が約100件と少なく、抗ハブ毒ヒト抗毒素販売での収益性が乏しいと予想されるため、開発製造を引き受ける医薬品製造業者がいない状況である。そのため、ヒト抗毒素の医薬品承認に係る、臨床試験の実施及び医薬品製造業者の確保が大きな課題となっている。

##### ○ハブクラゲ等海洋危険生物対策

- ・県内のビーチにおけるハブクラゲ侵入防止網の設置率は、76.4%と高い割合となっているが、管理者のいないビーチや侵入防止網未設置のビーチも見受けられる。

#### V 施策の推進戦略案 (Action)

##### ○ハブ咬症対策

- ・サキシマハブの分布調査は、現地住民への聞き取り調査の強化や夜間調査を検討し、同時に危険外来種駆除モデル実験を並行して行うことにより駆除手法を含めた有効な捕獲方法を模索する。
- ・抗ハブ毒ヒト抗毒素の開発については、臨床試験の実施及び医薬品製造業者確保に向け、現在使用されているウマ抗毒素(ウマの血液から作る血清)との比較試験データの解析、安全性や製造コスト等の優位性について検証する。

##### ○ハブクラゲ等海洋危険生物対策

- ・海洋危険生物対策については、県民及び観光客への広報啓発活動を継続していくとともに、侵入防止網未設置ビーチへ設置の呼びかけを行っていく。また、併せてハブ・ハブクラゲ等危険生物対策講習会を引き続き実施していくことで、関係者への意識啓発を行っていく。